



共同通信



2008年11月7日 147(357号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email:koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://koudou.jp/> 振替01170-3-4901
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 47 『あの時渡されたバトンを・・・』

長女が共同幼稚園に転入させていた
いただいた5年前、転入先を探してい
るときに出会った共同幼稚園の当時
の案内書には、「子どもたちにとって
必要なのは、やがて見つめざるを得
ないであろう人生の目標や課題を早
め早めに見てしまうことではありま
せん。」という一文がありました。私
は大変共感し、この幼稚園は子ども
にとって本当に必要な生きていく力
を身に付けることができる場所であ
ることを直感しました。私自身一人
の父親として子育ての渦中にいると
どうしても成長の先取りをしたくな
る時があります。読み書き計算など、
将来を心配すればこそではあるのだ
ですが、でも実際にはほんの少しか

先取りすることで自分が安心したい
のかもしれませんが。

少々前のことですが、順子先生に
ご紹介いただいた奈良女子大の浜田
寿美男先生の著書「赤ずきんちゃん
と新しい狼のいる世界」を読ませて
いただきました。以前平岡先生もご
紹介されていましたが、その視点は
鋭く、けれども平易にかかれており
ご一読をおすすめしたい本です。一
部だけをご紹介するのは難しいので
すが、掲載されている写真にとても
印象的なものがありました。およそ
50年位前の薪を背負った少女の写
真、続いて現代の、学習塾のカバンを
背負った少女の写真です。この2枚
の写真には子どもも貴重な労働力

だった時代、子どもなりに家庭の中でも社会の中でも果たすべき役割を持っていたこと、翻って現代は個人としての自分の能力を高め、競争を勝ち抜いていくことを求められている、大きな様変わりが見て取れます。望むと望まざるとに関わらず、子どもたちをとりまく世界は大きく変わっており、その渦中で果たすべき役割を見失ってしまったり、能力を高めることが制度化されその能力をどう使うかということは大切にされてこなかった、そのような指摘がされており、子どもが本当に身につけるべき力の大切さをあらためて認識した次第です。

現代の日本は、食べていくという事に限って言えば昔に比べて随分楽になったのだと思います。でも今の社会もなかなか大変です。私自身も含めて園児のお父様方は今風の言葉でいうと“アラフォー”の方が多いと思いますが、この年代は会社員の方も自営の方も公家員の方も職場の中核となる、あるいは事業の正念場であったりしてその激務は相当な負荷であり、そういう働き方を続けていると自分を見失いそうな時もあります。でも、そこで立ち止まってもう一度冷静に自分を見つめ直す事がどうにかできているのは、家族の支えはもちろんです、やはり子ども

遊ぼうか考えながら眠った毎日が自分の中のどこかに根付いていて、生きることは楽しいことだと刻み込まれているからだと思います。そのように育った事、育ててくれた親や廻りの大人たちに感謝しています。

7～8年前のことですが、西宮に転居してくる前は我が家は埼玉県に居住しており、同じマンションにある先輩ママさんがいらっしゃいました。当時新米ママであった妻はこの3人のお子さんを持つ奥様に普段から子育てのことなどお世話になることが多く、何かお礼がしたいというようなことを伝えたのですが、返ってきた答えは予想していませんでした。「今度はあなたが、大変な時期にいる人を助けてあげればいいのよ。」と、そして「私もそういわれたのよ」と。私たち夫婦は大変感銘を受けました。その方の人間性はもちろんです、そうしてバトンリレーのように人の思いがつながれてきたのかと本当に驚きました。子育ては親だけではできない、やはり周りの人々に支えられているおかげなのだとすることをあらためて実感し、たぶんあの時渡されたであろうバトンを持って今度は我々がしっかり走って、そして次の誰かに手渡さなければならぬ、未熟な人間ながらもそう胸にきざんでいます。

このような素晴らしい経験を持ちながらも実際は会社と自宅をひたす

ら往復するような毎日でしたが、子どもの入園を機会に色々なことを考えるようになりました。ひたすら忙殺されるような日々の中に、幼稚園や地域のことをあまり知らない自分を見つけ、焦りのようなものを感じたのかもしれませんが。何かもっと関わりを持ちたいと思う中で、“のび～る”の皆さんと出会うことができました。女性と違い男性が仕事以外で何かするのはなかなか難しいところがあります。プライドもあるし、最初はつい壁をつくってしまう。でも同じ園児を持つ身、思いは一緒に何をしたら子どもたちが喜ぶか、色々話をしながら、お父さんたちだからできることをしようと活動しています。このお父さんたちのつながりが子どもたちを取りまく環境の一部になることを願って。

在園中の長男もあと数ヶ月で卒園となりましたが、今後もしできる限りなんらかの形で園との関わりを持ち続けていきたいと思っています。

(安田 正人)

「今の我々は書くことに関して、あまりに自由になりすぎている。

「調べるあるいは考える」と、それを「書く」ことの間には当然距離がある。にもかかわらず、その距離をあまり意識しない。だから「余分なものが溢れる。踏み止まって熟慮があってしかるべきところには止まらなく、そのまま流れてしまう。

「書く」ことを実現させるまでの困難をもう一度思え。」

(橋本 治)

たとえば、新共同訳聖書は、申命記 24章5～22節を、“人道上の規定”と定義しています。人道は、人が人として守るべき道なのでしょうが、生命に関わることで助けを求められた時に、見殺しにしないなどがそれにあたります。しかし、申命記24章5節以下で述べられていることが、“規定”“守らねばならないこと”と理解していたようには読めません。「人が新たに妻をめとった時は、戦争に出してはならない。また何の務もこれに負わせてはならない。その人は一年の間、束縛なく家にいて、そのめとった妻を慰めねばならない」は“人道上の規定”と言えなくはありませんが、それ以上に、もし社会がそれを許さないとすれば、そのゆがみこそが問われなくてはなりません。60年前、アジア太平洋戦争の時、“新たにめとった妻”を、その儀式だけをして、妻を残し“戦争に出された”若者は帰ってきませんでした。そんな無残なことをあたりまえのようにした戦争も、その結果は悲惨なものでし

た。規定ではなく、“新たに妻をめとった人を、戦争に出してしまう社会”は、どうであれゆがんでいるのです。

「あなたがたが畑で穀物を刈る時、もしその一束を畑におき忘れたならば、それを取りに引き返してはならない。それは寄留の他国人と孤児と寡婦に取らせなければならぬ。そうすればあなたの神、主はすべてあなたがする事において、あなたを祝福されるであろう」(申命記24章19節)。というようなことも、人道上の規定と言えなくはありませんが、それ以上に社会がその程度の余裕を失っているとすれば、そのゆとりのなさが問われなくてはなりません。もし、その程度のゆとりを失った社会を作ってしまったとすれば、“あなたの神・主”は人というものを作ってしまったことを恥じるに違いありません。

人は、どこかで“穀物”を栽培する術を身につけました。種をまいて、“刈り入れ”の時をむかえるにあつ

て、人はそれをあたりまえのこととは理解しなかったはずで、自然の条件に恵まれない時に、“ききん”と結果の飢餓に苦しんだことを、聖書は繰り返し書き残しています。穀物の刈り入れは、いつでもあたりまえだったわけではありません。種をまいて芽を出す時の驚き、気象条件・自然の力で失われることになった時の嘆き、そして刈り入れの時の喜びなど、穀物を育てることで必然的に身につけることになった心の豊かさは、根こそぎ自分の取り分にして止まない貧しさとはなじまなかったはずで、これらのことは“人道上の規定”であったということではなく、自然の営みの中で人が生きた時に身につけることになった、恐れや驚きや喜びがそうしないではおかなかったということであって、“規定”ではないのです。

「ある安息日に、イエスが麦畑を歩いて行かれると、弟子たちは歩きながら、麦の穂を摘み始めた」(マルコ福音書2章23節)は、少なからず申命記24章に由来します。ここで告発されているのは“麦どろぼう”ではなく、“規定”を守らなかったからです。もとはといえば、“規定”がそれ(麦の穂を摘むこと)を許したのではなく、“空腹”である人が、そのように振舞ったとしても、もともと許容される社会だったのです。その社会の懐の深さが、それを許容したの

だと考えられます。ですから、問題になっているのは、麦畑の所有者との間ではなく、“規定”にこだわる人たちとの間です。

申命記23章25節には「あなたが隣人の畑にはいる時、手でその穂を摘んで食べてよい。しかし、あなたの隣人の麦畑にかまを入れてはならない」とも書かれています。それが“規定”ではないし、許容しあう社会ですから、たとえば“立て札”を立てそれを告知したりはしません。イエスはといえば、“規定”であることを断固退け「・・・だから、人の子は安息日の主である」と宣言します。イエスがそうして、主であると宣言した自分を背負って生きるのが易しくなかったのは、多くのことを“規定”で済ませる社会であったとすれば、やむを得ないことでした。

(菅澤 邦明)

みんなだけの「秋の空」

123キロ！6月に子どもたちと植えたさつまいもの苗が、太陽の光と空からの雨、土からの栄養、みんなの祈りを葉や根っこいっぱい吸収し、大きく大きく成長しました。

そう、123キロとはそのさつまいもの重さです。

・・・その後の日曜礼拝で楽しんだ結果、年長2人、さんぼ・らった2人、ぽっぽ3人でだいたいそのくらいの重さです。いも掘り初挑戦のぽっぽぐみはドキドキしながら、去年の経験のあるさんぼ・らったぐみは少し余裕の様子でいも掘り3回目の年長組は慣れた手つきでそれぞれにいも掘りをしました。時々『ようちゅうでできた！』『かえるやあ～！』『いまバツとんだ！』なんて叫び声も耳にしながら・・・その日以来、ふかしいもや天ぷら、大学いも・・・毎日のようにさつまいもを味わってきた子どもたちです。

そんな子どもたち、10月8日には各クラスそれぞれの道で甲山の頂上を目指しました。高さ309.4mの甲山。ぽっぽ組は山のふもとまでバスで行き、そこから頂上を目指し、さんぼ・らった組は阪急仁川駅から頂上を目指します。年長組は幼稚園から歩いて頂上を目指すのです。秋晴れの空にパワーをもらい、弾む心

で『エイエイオー！』。意気揚々と門を出ました。仁川駅から歩き始めたさんぼ・らった組。初めて歩く道、景色、すべてがみんなのエネルギーになり、自然と足取りも軽くなっちゃうから不思議です。しばらくみんなを照らし続けていたお日さまも、山道に入れば少し休憩～で、そこはやっぱり秋でいっぱい。どんぐりやくり、色づき始めた葉っぱ・・・などなど。冒険道では足を一步踏み出すたびに、その土のいいにおいがしてきます。

そして少しずつ少しずつ明るくなってきて・・・なんだか聞き覚えのある声も・・・こけてヒザをすりむいていたって、お腹がすいていたって、疲れていたって、それだけで踏み出す一步に力が湧いてきちゃうんです。

そして頂上に着いた時の仲間との再会　これほどまでの感動はありません！なんてったって、みんな本当に『いいかお』です。山の頂上に着いたとき、いつもより空が近くなったような気がします。ビルや建物が無い頂上で見上げる空はいつもよりとっても広い気がします。一生懸命に歩いて眺める空はいつもより輝いている気がします。

そう、そこにはみんなだけの『秋の空』が広がっていました。

(藤原 紘子)

すずや便り

こんにちは。西宮を離れる前はたくさんの方に声を掛けていただきました。ありがとうございます。さて9月30日にさいたま市へ到着、3週間が過ぎました。季節が夏から秋へと移ったせいもあるのでしょうか、「まだ、たった3週間!？」という感じですよ。

西と東だからなのか、カルチャーショックが大きいようで「朝、登校したらジャージに着替えて帰りまでずっとそのまま」とか「給食のうどんが一食分ビニール袋に入っている(西宮は鍋と一緒に煮込んであったらしい)」だの「ぼけても誰も突っ込んでくれない(それは関東だから仕方ない)」。母としてできるのは、話を聞くことだけだとしみじみ思います。子育ての原点に戻って「元気に一日を過ごせたね、良かったね。」と日々を過ごしています。

引っ越した直後はどこのスーパーに行っても「生すじこ」が売ってまして、それを買い込み大量に「いくら

醤油漬け」を作り(子どもたちの大好物)、いくら食べ放題状態にして元気を出してもらっていました。旬のものなのであつという間に店頭からなくなりましたが～。もっと作り置きしておけばよかったです。まだまだおいしい食事が必要な状態なので、精進しなくては。

突然ですが、最近のお気に入り：本では「よい子への道」です。「まいのなんでも案内」でもお勧め!でしたね。お饞別にいただいたのですが、読んでいて気持ちよく笑えてちょっと現実逃避するにはもってこい!(これは親の感覚かも・・・)親子でげらげら笑って気分もすっきり!なのです。もう1つ、テレビの公開番組の観覧希望を申し込むこと。東京のテレビ局で収録をしていることが多いので、ジャニーズ狙いで頑張っております。みのさんじゃないですよ～。自慢できるような番組に当たったら報告をしたいと思います。

(富家 香麻里)

2008年11月 あんなこと こんなこと...

教会学校から

《10月の活動報告》

10月5日(日)

お米を食べよう!

10月12日(日)

わなげ大会

10月19日(日)

幼稚園の子どもたちと遊んでもらう

10月26日(日)

作って遊ぶ

《11月の活動予約》

11月2日(日)

おやき&けりごま

11月8日(土)

共同まつり

11月9日(日)

射的大会

11月16日(日)

高松公園で落葉拾い&ドッチビー大会

11月23日(日)

クリスマスグッズ製作

&クリスマス映画上映会Part

11月30日(日)

クリスマスグッズ製作

&クリスマス映画上映会Part

みかん便り

はい、第2回みかん便りです。

ただいま風邪ひき真っ最中。先月の中旬から、風邪 肺炎 ぜん息 肺炎 風邪って循環してて、現在進行形で苦しんでいます。1ヶ月以上続いているんですよ(ノ、) ウカ...

1人暮らして、こういう時ツライですね!! しんどくても料理して、洗い物して、洗濯して、掃除して、宿題してetc、毎日大忙しで、まったく休めません。。 ああ、しんどいー。

話し変わって現状報告、(=´ `´ =)ノ僕は小・中・高と学生時代『社会系科目』が大っ嫌いでした。「公民? 現社?? 意味わからん。。」って感じで今まで過ごしてきました。でも、今の所属は《法文学部総合政策学科》。超『社会系科目』です(笑) 入った理由は、そこしか受からなかったって悲しい理由です(泣) 大学前期は毎日の授業が辛くて、面白くなくて、結構休んだりもしてました。でも、なんか後期は毎日の授業が楽しいです。相変わらず『倫理』とか、『公共問題』とかですが(笑)

僕の将来の夢は“小学校教師”です。中学生の時から夢です。でも、最近考えが変わってきました。最近ではアフリカとか、カンボジアに行っていて、自分にできることを何かしたいなあって思っています。ボランティアってわけでもなくて、仕事として

衣食援助をしたり、子どもたちに勉強を教えたりしたいなあって結構真剣に考えてます。きっかけは授業で聞いたこの言葉。「何で君たちは、今のアフリカやアジアの状況を人から聞いて、TVで見てっていっぱい情報が入ってるのに何もしようとせんのか? 雨が降るって情報入ったら傘持っていくやろ? それと一緒にや。何かしようや!」結構深いっしょ(。・

。)何か昔、金八先生が言ってた言葉らしいです(笑)

でも、ホンマそうやと思ったんで、これから国際問題をちゃんと勉強していこうと思ってます。7秒に1人、飢餓や環境適応できなくて子どもが1人死んでるらしいですよ。皆さんこういうこのことも、少しでもいいから頭の片隅に入れて毎日生きるように!!

でも、飢餓のこと考える前に自分の体治します(;;´ `´ A` 最近、飯作るのめんどくさくて、1日1食ちくわと野菜ジュースのみが続いてます(苦笑) 反省して、明日からは自炊再開しますんで、えらそうな事言ったのは水に流してください。

第3回のときは元気な情報を書くつもりなんで気楽にのんびり待っていてくださいね ほな、この辺で失礼しま〜す。マタネ(^-^)/~~Bye-Bye!

グアテマラ便り

先日、自然生態の授業が終わりました。グアテマラの地形、気候、生態についてだったのですが、その担当講師の方は日本に2回、研修などで滞在したことがあって、日本との比較も含めて話してくれました。

まず、山、そして火山のできる過程などは、グアテマラも日本と同じなので、風景がどことなく似ているのです。ただ、赤道に近い所なので、その高度によってまったく気候が変わってくるんですね。アンティグアは1500Mで、涼しい毎日です。さらにウエウエテナンゴ(近頃缶コーヒーで売り出されてると聞きましたが・・・)は2000M。おそらくその缶コーヒーのデザインになっている展望台は3000M位です。この前、そこへ夜明けを見に行きましたが、こともあろうか担当講師に、「かけっこだっ!」と言われて走ってしまって。息苦しい思いをしました。

一方、有名なティカル遺跡のある地域は1300M位で、40度に達する暑さ……。火山帯の近くには温泉もあるのですが、日本のような感じじゃなくて、個室風呂になっていました。こっちで日本風の温泉浴場があったら、どんなにステキ!と思うんですけどね……。 (ココに

来て9ヶ月、湯船に浸かることなく暮らしています。くすん)

ティカルと言えば、クラスの研修で訪れたとき、一番高い神殿上で、皆で瞑想のときを持ちました。ただ、自然の音だけが耳に入ってくる(ホエザルの声、クモザルのケンカ、鳥たちの声……)とても豊かなひとときでした。ジャングルの木々の呼吸まで聞こえてきそうです。

9月の旅では洞窟を巡ったり、国鳥のケッツアルを待ったり(結局その朝には姿を見せませんでした)。今も豊かな自然に覆われています。クラスの皆は、泳げなくても(泳げないグアテマラ人多し)水辺に行く而入ってます……。写真はセムックチャンペイと言う、川棚です。

(横山 佳代子)

P.S. 横山さんから10月30日にメールが届きました。

12月2日にこちらを発ち、4日の夕方に日本到着予定です。

7日、教会に伺えたらと思っただけですが、ペルー人のフォルクローレデュオのチャリティコンサートのお手伝いをする事になりそうなので、(きっと無料です。大阪OAP? 帝国ホテルのお隣のロビーだと思うのですが。南米のグッズなども売られて、楽しいイベントです。良ければぜひ……)聖書を読む会? は第2週ではありませんか? そうだったら、参加させていただきたいです。

大切な贈り物・津門川 75

毎朝の登園は、阪急の踏み切りを渡り、慌ただしい商店街を抜け、津門川に出ます。すると、ぱっと開けたように明るく、そこには賑やかな子どもたちの「おはよう」の声で溢れています。何気なく通り過ぎていく毎日ですが、改めて想うと、絵本の1ページのように気持ちの良い、すがすがしい風景です。

津門川は、その日によってきれいだったり、にごっていたり、水かさが増していたり、そうでなかったり様々です。鯉や鴨、サギや亀など、私の通る短い範囲にびっくりするほど次々と可愛い生き物に出会えます。それらの生き物のおかげで、門に入るのをむずがった息子は、何度笑顔

をもらったことでしょうか……。

また、今年の夏はスッポンが顔を出しているのに出会い、小1の兄は“ミニミニ水族館”に何やら報告に行っていました。

私たちは、おさんぼに、四季折々と、津門川にお世話になっています。人の手をかけないで育まれる生き物たちに、こんな身近で出会えることに感謝の気持ちで一杯です。

しかしそのために、皆様に地域の方々に見守られていることを忘れないでおこうと思います。幼稚園で過ごす子どもたちの記憶にしっかりと残る川です。津門川を通して、自然と生きものを大切に想うきっかけをいただきました。

(杵村 昌子)

愛宕山で生まれ育った私にとって、津門川は昔から良く知っている川です。私が小学生の頃、今から20年ほど前の津門川は多分生活用水が流れていて、思い出してみてもとてもきれいとは言えない川でした。

それから10年ほどして、毎日出勤の時、川の横を通るようになって、久し振りに川をじっくり見てみると「え？昔よりきれいになってる？魚もいる！！」とびっくりしたのを覚えています。その数年後、川の横に住むようになり、子どもも共同幼稚園でお世話になるようになりました。

以前よりきれいになった川を見るのはとても気持ちがよく、川に住む生き物や植物も今ではたくさんいて

びっくりです。そして子どもと川を見てみると、いろんな生き物を発見できてとても楽しいです。季節によって植物、川に集まる生き物も変化していてぼんやりとながめて歩くのもすごく好きです。

勇佑が教会学校で、川掃除に時々参加するようになり、こんなにきれいな川になったのはこんな活動の積み重ねなんだと改めて気付いた時、とても貴重な経験をさせてもらっているんだなと思いました。

きっと、子どもたちが今見る津門川は私が子どもの時に見た川よりずっと魅力的ですてきな川だと思います。

まいのなんでも案内

朝晩はもう冬かと思う冷え込みで、マフラーと部屋履きが手放せない今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。あと、蜂蜜漬けの生姜と、湯たんぽあたりにも日々お世話になってます。私と同じく冷え性の方、是非お試してください。そんな寒い中、私はほぼ毎週末、屋外（しかも河原）で英語劇の練習をしています。今回、大学の学祭で公演するのが、役者としては最後の舞台になるので、なかなか感慨深いです。その割にせりふを暗記していなかったり、大道具ができてなかったりするの、これから2週間は、かかりっきりになりそうです。頑張ります。さて、そのお芝居なんですけど、何をするかというと、『Wicked（ウィキッド）』です。ブロードウェイのミュージカルで、日本でも劇団四季がずっとやってたり、USJのショーでやってたり、知ってる人もそこそこいらっしゃるかなと思うのですが。この『Wicked』、実は、なかなか児童文学にも関係あるのです。だって、『オズの魔法使い』の平行ワールドのお話だから。今回から次回にかけては、『オズの魔法使い』『Wicked』を、まとめて紹介してみたいと思います！

『オズの魔法使い』は、ドロシーと
16 いう女の子が、アメリカのカンザス

から竜巻のせいで家ごと、オズの国っていう異世界に飛ばされる場所から、始まります。家が落ちたのは、オズの国の東を治めていた悪い魔法のちょうど真上。彼女はそれで死んでしまい、ドロシーは北の善い魔法から祝福を受け、東の悪い魔法の魔法の靴をもらい、元の世界に戻るために、偉大な魔法使い、オズの住むエメラルドの都へ向かいます。道中、脳みそが欲しいかかし、心が欲しいブリキのきこり、勇気の欲しいライオンに出会い、それぞれ欲しいものをオズにもらうため、一緒に旅をすることになります。エメラルドの都はすべてがエメラルドでできていて、緑。やっと会うことができたオズは、願いを叶えてほしければ、西の悪い魔法を殺して来い、と無理難題をふっかけるのでした。ドロシーら4人は西の国へ。色々あった拳句、見事、西の悪い魔法を水で溶かし、エメラルドの都へ戻ります。ところが、そこで判明したのはオズの正体。なんと彼は、ドロシーと同じように、アメリカから飛ばされてきた、全く普通の人間だったのです。当然魔法は使えない。それでも、ドロシー以外の3人には何かしら望むものを与え、ドロシーとも、彼がオズの国に来たときのように、気球で一緒に帰ろうと

します。しかしドロシーは気球に乗り損ね、結局最後の望み、南の善い魔女、グリンドに会いに行きます。グリンドは、実はドロシーがずっと履いていた東の悪い魔女の靴こそ、行きたいところへ連れて行ってくれる魔法の靴なのだとの説明。そういえば、西の悪い魔女も、この靴を欲しがってたっけ。ドロシーは靴を使い、無事、カンザスへ帰ることができました、めでたしめでたし。

と、まゝこれがあらすじです。これだけならまゝ普通のお話なんですけどね、サイドストーリーが色々とおもしろいんです。中でも私が圧倒されたのが、これ。「昔々、あるところに美しいお姫様がいました。このお姫様は、大変な力を持った魔法使いでした。(中略)お姫様は、誰からも愛されていましたが、何とも悲しいことに、自分の愛をそそぐ相手がどうしても見つかりません。男はみんな、あまりにもおろかでみにくく、美しくてかشيいお姫様にはふさわしくありませんでした。けれども、ついに、顔立ちがよくて、男らしくて、年の割に賢い少年が見つかったのです。お姫様は、この少年が一人前の男になったら、是非とも結婚しようと決心しました。少年を自分のお城に連れてきて、どんな女も憧れている、たくましくて、善良で、立派な男に育てようと、ありとあらゆる魔法を使いました。」(偕成社文庫版より引

用)・・・これが噂の、逆紫の上計画ですか！！(笑)私、多分『オズの魔法使い』を初めて読んだのは小学校低学年かと思うのですが、こんなエピソード、全く覚えておりませんでした・・・。まゝ本筋には関係ないので仕方ないのですが。やっぱり、いい本っていうのは、読むたびに新しい発見があるものだと思うんですよね。自分が読む状態によって、受け取り方も全然変わってきますし。次回はいよいよ『Wicked』についてお話ししたいと思うので、是非『オズの魔法使い』を知ってる方も一度読み返してみて、新しい発見をしてください！ではまた次回。

(高橋 舞)

つとがわ 編集後記

一週間前、ふと“湯たんぼ”のことが気になって確認してみたら“フタ”が行方不明でした。足先が冷えやすく、結果寝付きにくくなる為、昨年“無印良品”で見つけたポリ湯たんぼには重宝しましたが、今のところ“フタ無し”状態です。足先だけでなく、指先、耳などの“末梢血行障害”に悩まされる季節になってきました。病院にいったりしましたが、結果渡されるのはビタミンE製剤だったりします。やっぱり“湯たんぼ”なのです。

久し振りに宝塚の父を訪ね、ここしばらくとは様子が違っているので、囲碁の話をしたところ、“やってみる”ということになって、久し振りに囲碁を2局打つことになりました。ここしばらく元気がなかったのは施設の投与している“くすり”だとらんでいます。

(K)

好きな色がいっぱいあります。ピンクもその1色です。ピンク色ってうきうきしてくるといいうか、明るい気持ちになります。先日、子どもたちと総合運動公園のコスモスの丘に行ってきました。秋晴れの鮮やかな青空にコスモスのピンク色がマッチ たくさんピンクにうっとり~ してしまいました。園舎に、プランターに、そして畑に、いろんな場所でコスモスに出会うたびに嬉しくなります。

すてきな色だな~と改めて感じました。

(N)

教会学校の子どもたちと六甲登山へ行ってきました。年長の時間を一緒に過ごした子どもたちがもう2年生。毎日全身で遊んでいたみんなが、テストの話をしているなんて~...と、時間の流れの早さを感じ、一瞬一瞬を大切にしたいなぁと思いました。久しぶりの登山は大変だったけれど、卒園したみんなと過ごせる時間がとっても嬉しかったです

(Y)

今、ナンキンハゼがとても大好きです。ご存知ですか？ナンキンハゼ、街路樹としてもよく見られる木です。今ちょうど葉っぱが緑から鮮やかな赤に色づいています。少し調べてみると実がついているのですが、その実はだんだん白くなって葉っぱが落ちてそのまま残っているそうです。葉っぱのない木に白い小さな実がいっぱいついている、その姿も楽しみです。ナンキンハゼはいつもそこに立っていたはずなのに、今の時期に歩いて気付く事ができました。子ども達と歩いていると私もいろいろ気づかされます。素敵今年の秋の出会いに感謝します。

(I)

今年は4年に一度、市長選とやら~。現職市長の市政報告会に参加した(これはワケあり。聞かないでね)。4年前、事情あってひどい風邪ひき状態、加えて4年前も市長選があって、ワケありで何度かその会に参加してもっと症状が悪くなり、今年はそうなりたくない願っていたのにやっぱり「悪化」しそう。

「西宮ガーデンズのオープンで4000人の採用、200を超える有名店舗の参入でこれからガッポガッポお金が入ってくる。切りつめてきて黒字にかえた市政は余裕ができるので、何でもしたいことをやっていける」。アホ！コツコツ地道に汗流して地元で生きてきた小さな店はどうなる。一人でも追い込まれることになったらー。JR西宮のフレンテからコープは撤退する。隆盛を極めた神戸ハーバーランドは今、ひとつひとつ灯が消えていっている。市長の手で「にしきた」はいつか訪れる「衰退・破滅」への一步を踏み出そうとしている。

(J)